

2018年度 神戸大学男女共同参画推進室 ユネスコチェアサマープログラム 事前報告書
 Kobe University Gender Equality Office UNESCO Chair Summer Program Pre-departure Study (excursion) Report

学部・研究科 Faculty/School	学科・コース Course		
国際協力研究科	国際協力政策専攻		

見学日 Date of excursion	見学先 (1件につき1つ報告書を書いてください) Location: 1 report/location
2018年 9月/month 25日/day	ガジヤマダ大学・ジョグジャカルタ

はじめに、このプログラムに参加させていただいたことに感謝します。また、アレキサンダー先生、岡田先生をはじめ、ガジヤマダ大学の先生方や学生の方、このプログラムに関わった全ての方に感謝の気持ちで一杯です。出発直前に関西空港が水没したことも、今になっては、これも何かしらの巡り合わせなのだろうと思えます。以下、今回の研修で疑問に感じたこと、この研修から学んだこと、改善のために提案したいことを述べます。

疑問に思ったこと

批判的に述べるならば、全体的なインドネシアの防災対策の印象として現段階の防災対策が万全であると評価をしているように感じたことが大きな疑問です。具体的には、コミュニティの強さが果たしてメリットと断言できるのか、防災対策が一辺倒、そして不測の事態を考えていないなどの印象が残りました。第一に、コミュニティの強さが防災対策のうえで完全なメリットになるかという点ですが、ジョグジャカルタの地域の最大の特徴であると言われていました。しかし、コミュニティの強さが強いということは、移住してきた人などのもととそのコミュニティに属していない人々が防災対策の対象からは排除されてしまうように感じました。コミュニティの結束力が高いからこそ、マイノリティにあたる人にとっては災害時でなくても息苦しい社会かも知れないと感じました。そんな社会がもし災害に見舞われるとすれば、マイノリティの人々にとってはより生きにくい社会になるのではと考えました。また、防災計画のベースとなる考え方として、コミュニティの多くがムスリムで、モスクが情報共有の役割を担っている点では、非ムスリムに対しては包括的ではないように感じました。

第二に、今回のプログラムで紹介していただいた防災対策は、時折、一辺倒であるような印象を受けました。例えば、上記に述べたように、コミュニティの強さを防災対策のメリットであるという説明や、災害時の援助人員はその地域外や政府から派遣されているという説明を受けましたが、質疑応答の中で、一部の人はその災害地域に住んでいる可能性がある、とわかりました。災害時に主導的役割を果たす人が、同時に被災者である可能性があること、主導的役割を果たす人の家族が被災者・犠牲者になる可能性があることを考慮できていな

い議論がされているように思いました。その地域の防災システムや議論を「教える」という点では、議論が浅くなりがちなのではと感じました。

第三に、防災計画において、不測の事態を想定していないような印象を受けた点でも疑問が残っています。例えば、火山の噴火と地震が同時に起こることを想定していない点、噴火警報の伝達システムがダウンした時の代替措置が用意されていない点で不測の事態に備えていないように感じました。また、物資の備蓄システムでは、大規模災害に対応できる量の物資を備蓄しておらず、火山の噴火が起こってから、中央政府から物資が供給されると聞きました。その場合、噴火によって、道路が寸断されることなどは想定されておらず、その防災計画がうまくいかない場合もあるのではと疑問に思いました。

この研修で学んだこと

この研修で得たことは、実際の現場を見て、そこから複数の視点から物事を考える経験と、一度の訪問で全てを知ったつもりになってはいけないということです。2週間滞在しましたが、観察することができたのは氷山の一角だと強く思いました。

フィールドに出向いて、実際の現場を見学して、人々からどのように話を聞くかという実践的な経験を積むことができたと思います。特に、災害のフィールドでは、インタビューをする相手に、敬意をはらい、いかに個人的なエピソードを聞くことができるかも重要であると感じました。インタビューでは限界もあって、親族を亡くしている場合もあるので、注意を払わなければならないということも身をもって知ることができました。

ちなみに、一人の人間として学んだことは、よほどのことがない限り、にこにこしている方が万事上手くいくということです。それは、神戸大学からの学生からも学びましたが、インドネシアの人々のおおらかさからも学んだと思います。

改善のための提案

一つ提案したいのは、参加する人すべてが、名札をつけることです。すべての学生が毎日出席しないのであれば、尚更だと思いました。名札があればより良いと思います。

また、日本からの学生にはSIMカードやWi-Fiを持つことをもっと強く推奨する方がよいのではと感じました。SIMカードも事前にAmazonで購入できるようです。大学構内ではeduroamは電波が弱く、現地の学生のIDを借りている人が多かったです。現地の学生も1日当たりの上限が決まっているので自身のネット環境を自分で用意する必要があると思います。災害時などは、ネット環境も役には立たないかもしれませんが、日常的な身の安全の確保には有用だと思います。